

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 11 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890101516
事業所名	グループホーム ガリラヤ久米
(ユニット名)	西通り1丁目1番地
記入者(管理者)	
氏名	西岡 忍
自己評価作成日	令和 6 年 11 月 5 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 『今、ここで生きている人々に寄り添うことを使命とする』</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①普段のケアの中での、利用者の表情や反応などをこまめに記録していく。問題点や出来なかった事だけではなく、良かったこと・嬉しそうだったことなどの記録を意識する。 ・タブレット導入で慣れない為、日々の記録をするも良い事の記録まで実際記録するのは難しかった。 ②アセスメントシートの評価と記載は担当職員にも協力してもらい複数職員で評価する ・アセスメントシートは各担当の職員に評価してもらいその後管理者や計画作成担当者、看護師と複数で行うことができた。 ③次回の評価時には、部分的に一般職員にも自分たちのケア内容について評価できるように協力してもらい ・複数での評価は難しいが一部の職員に評価を見てもらい一緒に考える事が出来た。全職員と行うのは難しかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内中心部から少し離れた郊外にある事業所は、小規模特別養護老人ホームや介護付き有料老人ホームなどが併設された3階建ての複合施設の1階部分にある。歴史ある社会福祉法人の運営理念「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」をもとに、事業所の基本理念を「今、ここで生きている人々に寄り添うことを使命とする」として、職員は利用者により寄り添った支援を実践している。開設3年目の令和2年からコロナの感染拡大が始まり、現在まで法人の方針により、一定の面会や外出の制限が設けられた状態が続いているものの、中庭にあるプランター菜園で野菜作りをしたり、敷地内の堀に泳ぐ鯉に餌をあげたり、事業所周辺を散歩するなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、併設施設から転居に繋がる利用者があるなど、高齢化や重度化の進行に伴い、自分でできることが少なくなってきているものの、職員は利用者の得意なことやできることを探し出し、少しでも役割や出番を担ってもらいながら、楽しみのある生活が送れるような支援に取り組んでいる。さらに、複合施設の看護師や協力医療機関との連携が図られ、重度化した場合には、利用者や家族の希望に応じて、看取り支援を実施している。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	認知症の進行に伴い会話やコミュニケーションが難しくなっている。家族の意向や本人の表情や様子を観察する事で希望や意向の把握に努めている	◎	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談し、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後にも、日々の会話や暮らしの様子などから、利用者の思いをくみ取るよう努めるとともに、家族に情報を報告して、確認するようにしている。また、前回の目標達成計画に挙げて、利用者の思いや意向の把握や記載の漏れがないように、全ての職員で取り組んでいる。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	認知の為、意向の把握が難し時は生活歴や職歴、本人の生活などを考慮しつつ、本人の心地よい状態や環境という視点で検討している	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人の生き方や大切にしてきたものを家族から聞く事で、本人の思いを推察している	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	記録はとっているが、ほぼ生活の記録となっており「暮らし方への思い」という面では具体性に欠けている	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の表情や行動、言葉から気持ちを推察し、どうしたいか伺いながら対応するように気を付けている	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に本人や家族、介護支援専門員などから話を伺いどのような生活環境で過ごされてきたかを知るようにしている	/	/	○	独自の「トータルケア・アセスメントシート」を活用して、入居時に、管理者等は利用者や家族と面談し、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわり、生活環境等の聞き取りをしている。これまで関わりのあった介護支援専門員や関係機関の担当者等から、サービス利用の経過等を聞くとともに、サマリーなどの情報を提供してもらうこともある。把握した情報は、アセスメントシートに記載し、職員間で共有をしている。また、日々の生活の中で、新たに把握した情報は赤色や青色の文字で追記するとともに、毎年アセスメントシートの情報を更新している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活歴や得意なことを活かし出来そうなことを試しながら把握している	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の様子やカンファレンスなど職員同士、情報を共有し把握している	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人からの訴えや家族の希望、日々の会話の中で望んでいることに近づけるように観察し検討している	/	/	○	事前に利用者や家族から希望や意向を聞くとともに、主治医や看護師から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員間で利用者本人の視点に立って、より良いサービスなどを検討している。必要に応じて、薬剤師や栄養士等の専門職から意見を聞くこともある。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	カンファレンスを行い情報の共有することで課題の把握に努めている	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常会話を通して思いや意向を話し合っているが、具体的内容はなかなか引き出せていない。出来る範囲で、本人の気持ちに沿えるよう努力している。	/	/	/	利用者や家族の希望や意向を踏まえて、カンファレンスの中で、日々の暮らしの様子から得られた課題を職員間で検討している。把握した情報や職員から出された意見やアイデアを反映して、計画作成担当者が介護計画の原案を作成するとともに、家族に説明して了承を得ている。また、利用者の状況に応じた検討が行われ、課題解決に向けた個別具体的な計画作成に努めている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	スタッフ間では常に情報を共有して、アイデアを出し合いながらケアに臨んでいる。家族に協力してもらい家に帰るなど本人の思いも尊重している	○	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者の体調面を考慮しながら、本人が今まで楽しんでいた活動は少しでも継続できるように考慮している。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力については難しい家庭もあるが、協力が可能な家族に対しては面会や受診を通して協力をお願いしている。地域との協力体制は現状難しく計画の中には盛り込めていない。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス等で情報共有しており、内容についても確認している。ケアプランをファイルして共有している。	/	/	/	○ 一人ひとりの利用者の介護計画の内容は、職員が参画したカンファレンスで検討して共有するとともに、ファイルに綴じられ、いつでも確認できるようになっている。以前は1週間分の総合記録シートに、看護や介護の内容、介護計画に沿った実践内容等を記録していたが、現在は介護ソフトが導入され、タブレットで職員は入力できるようになり、計画に沿ったケアの実践や特記すべき事項などの記録ができるようになっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	状況確認については、特に変わった事があれば記録に残している。介護計画を実践する上で難しかったり、変更が必要であればその都度、話し合っている	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	通常は3か月毎に見直しを行っている。入院など特別に状態に変わりがあれば3か月以内であっても見直しを実施している。	/	/	/	◎ 介護計画は3か月に1回見直しをしている。また、3か月に1回介護計画の更新時に評価を実施している。新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月実施するユニット会の中で、一人ひとりの利用者の現状を確認するとともに、3か月に1回モニタリングを行い、評価をしている。また、利用者の心身状態に変化が見られた場合には、状況に応じて関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のユニット会でカンファレンスを行い、現状確認や問題提起、ケアの変更等話し合っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	実施している。心身の状態に大きな変化があった場合には見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	問題が起きた時にはその都度スタッフ間で話し合いを行い、ケアの方向性や方法を検討している。時差勤務の為、ユニット会以外での会議は難しい。	/	/	/	◎ 月1回ユニット会を開催し、利用者の現状確認や個別カンファレンスを実施するとともに、各委員会の報告や業務連絡など、職員間で情報共有をしている。また、各ユニットの会議の日にちをずらし、両方のユニット会に、管理者と計画作成担当者が参加できるようにしている。緊急案件が生じた場合には、その都度出勤職員で話し合いをしている。ユニットの全ての職員を会議の参加対象として、事前に会議の開催日時を設定をしている。業務等で会議に参加できなかった職員には、会議録を回覧して周知し、共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ同士で些細な事でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。お互いの意見を尊重し、相手の話を聞く姿勢を持つようになっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	ユニット会を毎月実施している。業務や行事の都合で開催が難しいと思われる時は、その都度日程調整を行い周知している。会議録を回覧している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員が出動した際に、早出がその日の申し送りをを行う。また大切な内容は日誌や記録シートに記録し、翌日以降の出勤者も内容が把握できるようにしている。ケアの変更などは連絡ノートに記入する。	○	/	◎	タブレットの介護ソフトの情報のほか、法人全体や各ユニットの連絡ノートを活用して、職員の勤務交代時に申し送りを実施し、情報を伝達している。また、出勤時等に連絡ノートなどを確認し、職員はサインをする仕組みづくりが行われ、全ての職員に確実に情報が伝わるようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	入居者の重度化に伴い自身で「したい事」を決めるのは難しい状況となっている。逆に毎日のルーティーンを実施する事で落ち着いて生活出来ている入居者が多くなっている。	/	/	/	○ 生活の様々な場面で、職員は利用者へ声をかけ、選択や自己決定ができるよう支援している。高齢化や重度化に伴い、自己決定が難しい利用者が増えてきているものの、職員は状況に合わせて、選択肢を二者択一に絞って飲み物や着る服などを提示し、表情やしぐさを観察して、選んでもらうように工夫をしている。また、朝の起床時間や食事の時間を一律にすることなく、一人ひとりの利用者の生活リズムや希望に合わせて起床してもらうなど、習慣や希望を尊重した支援も行われている。さらに、職員が利用者へ声をかける場合には、笑顔で明るい声かけを意識するとともに、利用者の性格や好みに合わせた話題提供を心がけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	機会があれば二者択一できるような問いかけをしているが、認知症の為選ぶ事自体が難しくなっている。問いに対して「わからん」「どっちでもええ」と答える事が多い。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	機会があれば二者択一できるような問いかけをしているが、認知症の為選ぶ事自体が難しくなっている。問いに対して「わからん」「どっちでもええ」と答える事が多い。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	入居者に接するときは明るい表情と声を心掛けている。また一人ひとりの性格や好みを把握し、どう接すれば喜んでくれるかも踏まえて対応している。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や言葉から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう気を付けている。また、生活のパターンからおおよその検討をつけ、トイレに誘導したり、間食を準備するなど不安や不快な状態を長引かせない努力をしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	拘束虐待委員会の活動を通して人権や尊厳についての意識を高める努力をしている。入居者の方々に対しては、共生の意識をもって、自尊心を大切にしたい対応を心がけている。介護や誘導の声かけは、声の大きさやタイミングなどに気をつけている。	◎	◎	◎	◎ 定期的に、身体拘束虐待防止委員会や勉強会を開催し、職員は人権や尊厳、プライバシーなどを学び、意識した対応に努めている。管理者は、「概ね職員が意識した声かけや行動ができてきている」と感じているが、時には、大きな声や不適切な声かけをする職員の様子も見られ、その都度注意喚起をしている。また、居室の入室時には、事前に職員がノックや声かけをしてから入室することを基本として実践ができており、不在時にも、事前に利用者へ入室する目的を説明し、了解を得てから入室をすることができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	入浴は個室なのでゆっくりと関わりながら行っている。トイレは居室についており、安心して使用して頂いている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際は、どういった用事で入るのか説明している。また、本人が在室の際は、ノックをして声をかけてから入室している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法令順守の勉強会を実施しており理解している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来る事、得意な事を生かせる場を作るようにしているが、不十分。お互いに「ありがとう」という言葉が日常的によく聞かれている。タオルを干す畳む手伝いをお願いしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性や性格を把握し、トラブルにならないよう配席等の留意をしている。中には、重度の認知症で、自分の居室が分からない利用者もおり、居室前にテーブル席を配置して居室のドアを開放するなど、他の利用者が居室に間違えて、無断で入らないように工夫をしている。また、食事の際に仲の良い利用者同士が、場面の変わったレクリエーションや作業の場面で言い合いなどのトラブルになる場面が見られることもあり、場面に応じて配席を変えるなどの対応をしている。さらに、ほとんどの利用者は女性で、男性利用者は1名のみで、移動の動作が不安定なこともあり、日頃は居室の入り口付近に一人で配席をしているものの、レクリエーションの際には、他の利用者と同じ場所に移動して、職員は利用者が孤立することなく、楽しく過ごせるよう配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解できている。そうなれるよう、努力しているが、認知症の進行の為、他者との関係づくりが難しくなっている現状もある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	リビングで過ごす席は仲の良い利用者同士や相性の良い利用者を近くで会話を楽しめるように配慮している。環境を整え世話役の利用者にも一緒に声掛けしてもらえよう努めている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	依存心の強い利用者が居るため他の利用者が不穏になる事もあるが、個々の性格や生活歴を把握して、職員が間にはいりトラブルにならないよう声掛け、距離感を調節したりしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時の聞き取りで確認しているが、細かいところまでは十分分かっていない。個別外出の計画時などに確認していた。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会に来られる方との交流はあるが、ホームから出向くことは少ない。イベントのドライブで近くを通るなどすることがある。家族の協力のもと馴染みの病院に通うなど関係を続けられるよう努めている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナの為、行事や個別の外出などは現在実施できていないが、個別で近所の散歩を実施したり、鯉のエサやりや畑やテラスでのプランター栽培の成長を見て楽しんだり、収穫するなどしている。重度の方も、車椅子での散歩や、外気浴なども実施している。	○	○	○	現在まで法人の方針により、一定の面会や人混みの外出などの制限が設けられた状態が続いているものの、利用者になるべく閉塞感を抱かないように、日頃から中庭にあるプランター菜園で野菜作りをしたり、敷地内の堀に泳ぐ鯉に餌をあげたり、事業所周辺を散歩するなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、少人数の利用者に分かれて、ドライブなどの外出支援も行われている。さらに、希望に応じて、家族との外出や外食にも、柔軟に対応している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	盆踊りなど地域の行事に参加する際、協力を得ている。コロナの流行で現在は実施できていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の勉強会へ参加し知識の向上に努めている。日々の観察から、周辺症状が現れた時には、話し合いながら原因を究明し、安心して生活できるように取り組んでいる。また、困難事例カンファにて検討し、内容を周知している。	/	/	/	勉強会やユニット会の中で、職員は認知症や症状を学び、症状の進行に伴う身体面の機能低下などの理解を深めている。また、複合施設の小規模特養には作業療法士が配置され、マッサージや物理療法を実施するとともに、日々の体操を継続するなど、利用者の身体機能の維持を図れるよう努めている。職員は見守りや必要以上に手助けしない「待つ介護」の重要性を理解しているものの、時には優しい気持ちからできることにも、つい職員が手や口を出してしまう場面も見られ、管理者は注意喚起している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリや体操、散歩等を行い、今の機能が維持できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	出来るだけ自身で出来るよう、声掛け、見守りを行っているが、つい手を出してしまう場面が多い。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個性や能力を踏まえて、役割をお願いしている。	/	/	/	事業所では洗濯を業者に外注しているものの、戻ってきたタオルのシワを伸ばしてたたんだり、複合施設の厨房から食事が届けられるが、食後にコップ洗いやお盆拭きをしたりするなど、利用者のできることを手伝ってもらっている。また、職員は一人ひとり利用者のできることや得意なことを把握し、ほつれた服等を縫ってもらったり、包丁を使用して器用に柿の皮を剥いで干し柿作りをしたりするなどの支援も行われている。利用者のできる役割や得意なことを活かして手伝い、手伝ってもらった後に職員は感謝の言葉を伝えることで、利用者の出番や喜びに繋がるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	どの方も、何かしら得意な事や出来る事があり、他者からも認知されるよう声掛けや感謝の意を表現するようにしている。	◎	○	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	家族が本人の好みに合うであろう衣類や小物を準備されているので、それを踏まえて理解している。				全ての居室には洗面台やトイレが設置され、食べこぼしによる衣服の汚れや口腔ケア時には居室に戻るため、他の利用者の目を気にすることなく、移動して着替えをすることができている。食事の際に、エプロンを使用することなく、タオルを掛けて食べこぼしに対応するなど、職員は利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。また、利用者に希望の髪型を聞いて、訪問理美容で対応するとともに、家族の協力を得て、馴染みの美容室に出かけて、髭そりやヘアカラーなどに対応する利用者もいる。訪問調査日には、重度の利用者も、髪型や装いに違和感がなく、身だしなみや整容を整えることができていた。さらに、化粧水やクリーム、ヘアオイルなどにこだわりがある利用者もあり、家族の協力を得て対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自宅で使っていたものを持ってこられており、本人の好みのもと思われる。こだわりのある方には、その都度対応している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に相談しながら行っている。決められない場合は二者択一など、決めやすいよう対応しているが認知症の進行の為それも難しい場合もある。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族にも協力してもらいその人らしい服装を支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れがあれば、自室で新しいものと交換している。不都合なことは、他の入居者が気が付かないよう、そと対応している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があれば対応している。現在は訪問理美容を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	希望があれば対応している。現在は訪問理美容を利用している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	おおよそ理解している。				法人の管理栄養士がバランスなどを考慮した献立を作成し、複合施設の厨房でまとめて調理された食事が事業所に届けられ、利用者に提供をしている。利用者の状況に合わせて、刻みなどの食べやすい食の形態に対応するとともに、主食の量の調整や補助食が個別に届けられ、事業所で一口大にカットするなどの対応も行われている。食後に、利用者は湯飲やお盆を洗ったり、食器を拭いたりするなど、後片付けを手伝ってもらっている。月1回程度、職員が材料の買い物に出かけて、利用者と一緒におやつを作ることもある。毎月開催する法人の給食委員会の中で、食事内容やイベント食、行事食等話し合い、季節感のある旬の食材を使用した食事が提供されている。利用者のアレルギーの有無は、事前に栄養士に伝えられ、代替の食材を提供している。食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用しているが、湯飲は事前に持参した物を使用している。事業所では、職員の休憩時間を確保するために、以前から利用者と別々に食事は摂るようになっており、食事の際に、職員は見守りやサポートに専念している。手作りのおやつを提供する際には、利用者と職員と一緒に食べることもある。また、重度の利用者には、職員が隣に座り、献立の説明をしながら食事介助をしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	施設で作った食事を提供しているが、おやつなどで一緒に準備・調理をしている。コロナの流行で現在は回数は少ないが行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	以前はおやつやカレー作りを一緒に行っていたが、コロナの流行以降は実施できていない。また、認知症の進行、重度の入居者が増えた事も実施できない要因の一つとなっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	おおよそ把握している。苦手なものは替わりのものを提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	毎月の誕生日の祝い膳として、ちらしずしが出たり、季節ごとの行事食が提供されている。流しそうめん、羊炊き、鍋などできる範囲で季節を感じ取れる取り組みを行っている。ユニットで出来る範囲でおやつは果物やいも、和菓子など季節感のあるものを提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	施設として対応している。普通食、柔らか食、ソフト食があり入居者の嚥下状態や体調に合わせて提供している。低栄養の方にはエンジョイゼリーなどの補助食が提供される。盛り付けもメニューによって工夫してもらっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	湯飲みコップは個人の物を使用している。他は厨房がある為施設の物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナの為、一緒に飲食をすることは控えている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	コロナの流行の為自粛していたが、最近はおやつ作りから少しずつ実施している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	施設食の為、栄養士が管理している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分が進まない入居者には施設で作るゼリーで代替したり、栄養状態に合わせて、個別で補食を提供するなどして対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立や調理については栄養士が管理しているが、毎月給食委員会を開催しており、栄養士と職員が食事について話し合う場を設けている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	遅食の場合は冷蔵庫で保管後、2時間を限度とする、毎週冷蔵庫の掃除、消毒をするなどルールを決めて衛生管理を実施している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会等に参加し理解している。	/	/	/	起床時や毎食後に、職員は声をかけ、利用者は口腔ケアを実施している。居室内にある洗面台で歯磨きをする利用者が多く、毎回、自分で歯磨きをする利用者の口腔内の確認までではできていないものの、月1回程度、職員が口腔内を確認するようにしている。年1回、歯科衛生士による口腔内のチェックと指導を受けるなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。また、利用者の状況に合わせて口腔ケア用品を使い分けるとともに、口腔内に異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	仕上げ磨きの時に確認するよう気を付けているが、隅々まで把握するのは難しい状態である。臭いや出血などがあれば特に注意して、必要であれば訪問歯科を利用している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修や勉強会等で学んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日1回の消毒、毎食後の洗浄を支援している。難しい入居者については、夜間義歯を預かり管理している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	△	起床時、毎食後の歯磨きを励行している。うがいが難しい入居者にはリステインを使用し、スポンジブラシでふき取るようにしている。自身で歯磨きをされている方の、口腔内の観察や記録は不十分。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	施設内の勉強会や外部研修に参加し、理解を深める努力をしている。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。夜間のみ、紙おむつを使用している1名の利用者がいるものの、日中は紙パンツを使用している。また、職員がこまめな声かけやトイレ誘導などを行うことにより、布パンツを履いている利用者も数名いる。また、一人ひとりの利用者の排尿パターンを把握し、様子を見ながらトイレ誘導をするとともに、記録を残すことで排泄の状況が一目で確認できるようにしている。さらに、職員は便秘の及ぼす影響を理解するとともに、水分や食物繊維を摂取したり、運動や腹部マッサージなどを取り入れたりするなど、自然な排泄を促せるように取り組んでいる。加えて、排泄用品の使用は、利用者の排泄状況に応じて職員間で検討するとともに、使用や変更する場合には、事前に職員から家族に説明をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解している。不穏時は、排便状況との関連を意識しながら、ケアにあたっている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録に残すことで把握できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日中と夜間を使い分けたり、体調によって変更するなどしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレの場所が分からない等、認知の為支障となっていることがあれば、表情や様子を見て誘導するなどしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	食事や散歩の前など、本人のタイミングに合わせて声掛け誘導を実施している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	状態に合わせて職員が家族や本人に提案し了解を得ている。使用済みパッドの扱いなどから、衛生面を考慮し、職員主導で選定する場合もある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	実施している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ファイバーや水分摂取、運動、腹部マッサージ、ホットパックなど実施している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	おおよそは決まっているが、希望があれば応じている。	◎	/	○	両ユニットの間に、一般浴室とリフト浴室が並んで設置され、各ユニットで午前と午後を交代しながら使用している。利用者の状態に合わせて、リフト浴を使用し、安心安全に利用者が湯船に浸かれるよう支援するとともに、職員の負担軽減にも繋がっている。また、浴室には浴室暖房や床暖房の設備が設置され、利用者は温度差を感じることなく、入浴できるようになっている。脱衣所には、前傾姿勢を保持できるファンレストテーブルを設置するとともに、床はコルクタイルで、水分を吸収し温かく快適な環境となっている。利用者が入浴できる曜日や時間帯は概ね決められているものの、希望や体調等に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さなどに対応するとともに、日にちや時間帯を変更することもある。週2回程度、利用者は入浴することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯かけんや入浴時間など本人に合わせて実施している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗体、洗髪、浴槽へのまたぎなど、出来る範囲で自身で行ってもらっている。座位機械浴も活用している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	本人が納得できるような言葉がけをして誘っている。拒否が強い場合は、時間をずらしたり、日をかえたりしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定している。入浴後はバイタルは測定していないが、声掛け、目視で体調に変化が無いか確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	睡眠時間や様子を記録に残しており把握できている。	/	/	/	現在、眠剤を服用している数名の利用者がいるものの、できるだけ服薬に頼らず、日中に散歩や運動を取り入れて活動量を確保したり、就寝のタイミングを利用者の生活リズムに合わせるために居室でテレビを観たりするなど、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。夜間に寝つきの悪い利用者には、職員と一緒にリビングで会話をしながら過ごしてもらうこともある。中には、医師に睡眠状況等を相談し、緩下剤を変更することで良眠が得られるようになった利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	散歩やレク活動で日中の覚醒を促している。眠くなるまで時間がかかる方や中途覚醒して眠れない方は眠くなるまでテレビを見て過ごすなどしてもらう。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中は散歩したり、簡単な作業をするなどして退屈しないよう取り組んでいる。不眠が続く方については看護師に普段の様子を報告し、主治医と相談しながら薬の調整を行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	実施している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	認知症の為、自ら手紙や電話のやり取りは難しくなっている。友人から手紙が来たり、家族から電話の支援を実施している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	携帯を持っている入所者の方は家族からの手紙が届くと職員が間に入り電話をすることがある	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	可能な限り希望に合わせて電話の対応をしている。一人でも電話で話せる入居者に対しては自由に話してもらい、時々様子を見るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙や葉書は、一緒に読むなどした後、居室に飾るように置いている。認知症の為に難しい方も多く、返信のアプローチはできていない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	携帯電話を使用する入居者もいるので家族に協力、理解はその都度お願いしている。面会時に家族からの手紙を残してもらうなどお願いすることがある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	週に2回移動販売が来ており、主に利用している。それ以外は大型スーパーを利用することになり理解や協力はお願いしていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族の判断でお金の所持はしていない。お金を使う事があれば、施設立て替えで対応している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話をして納得してもらっている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	必要なものがあるときや本人が買い物や外出で現金が必要な時は、家族に連絡し、施設立て替え等の許可をもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来る範囲で要望には応じている。	◎	/	○ 感染対策が続き、一定の外出や面会の制限は設けられているものの、家族との外出や外食には柔軟に対応している。また、利用者や家族の希望に応じて、自宅での洗濯やかかりつけ医の受診など、柔軟に対応している。	
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	複合施設の為、玄関や建物周囲は施設が工夫している。	◎	◎	○	事業所は、小規模特別養護老人ホームや介護付き有料老人ホームなどが併設された3階建ての複合施設の1階部分にあり、玄関を共有して使用している。敷地内には広い駐車場が整備され、車での来訪がしやすくなっている。また、玄関スペースも広くて明るく、1階事務所にいる職員が来訪者に声をかけてくれるなどの対応をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	木材を使用した、温もりのある環境が整えられている。利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾を工夫している。	◎	◎	○	ユニット内は、木調の内装で落ち着いた雰囲気が感じられる。壁面には、利用者と一緒に作成した季節のクラフト作品が飾られ、利用者は季節を感じることができる。また、両ユニットの間にある中庭テラスにプランターを置き、利用者と一緒に野菜や花を育てたり、敷地内にある堀の鯉に餌をあげたりすることは利用者の楽しみの一つとなっている。さらに、感染対策のため、食事の際のテーブルは一列に配置しているものの、レクリエーションや作業等の状況に応じて、テーブルの配置を変更している。加えて、事業所内は掃除が行き届き、加湿器やオゾン発生装置等の空調が設置され、床暖房の設備もあるなど、快適な空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	職員が中心になっているが、毎日日課として掃除をして清潔を保っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾や季節の花を飾っている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う入居者同士で過ごしてもらったり、個別のテーブルで好きなレクに取り組んでもらっている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使っていた家具や装飾品、写真などを持参利用している。入居後は家族が持参された花や写真を部屋に飾っている。	◎		○	居室にはベッドや床頭台、エアコンなどが設置されている。全ての居室には、トイレと洗面台が備えられ、利用者は生活を送りやすくなっている。また、利用者は自宅から使い慣れた家具やテレビなどを持ち込むこともでき、家族からプレゼントされた花や写真を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	必要に応じて、ベッドでの立ち上がりのためのL字バーや夜間の動向を把握するためのセンサーなどを設置して、自分でトイレに行く際は安全に配慮して見守りを行っている。リビングの座席・椅子や居室入口に目印や表札をつけることで、混乱しないように援助している。			○	バリアフリー構造の建物は、壁に沿って木製の手すりが設置され、廊下も幅広など、利用者が安心安全に移動できる動線が確保されている。また、居室の入り口には表札のほか、目印になるものを置くとともに、立体化した表札を取り付けるなど、利用者が自分の居室を認識できるように工夫をしている。さらに、居室内にあるトイレにも、分かりやすいようにドアに「トイレ」と大きく表示している利用者もいる。加えて、室内灯のリモコンや水栓のスイッチにも印を付けるなど、利用者に分かりやすく、迷わないような工夫も行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	ぬり絵など、個別の作品を綴ったファイルを作成し、リビングにて保管している。収集癖のある利用者の方がおり、さりげなく物品を配置することが困難である。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけていなかったが、現在は徘徊で目が離せない利用者もいる為、鍵をしめている。	◎	◎	△	職員は出入り口に鍵を掛けることの弊害を理解している。日中に玄関やユニットの入り口を施錠していない時期もあったが、利用者の重度化による徘徊や職員の勤務体制もあり、現在はユニットの出入り口の施錠をするようになっている。また、外に出ようとする利用者には、職員が付き添って敷地内や近隣を散歩したり、庭に出て鯉の餌やりをしたりするなどの対応をしている。複合施設の玄関の出入りは事務所の職員が対応していることもあり、事務所の職員の協力を得るなど、ユニット出入り口の施錠を解除できる時間を作るなど、施錠が常態化しないように職員間で検討していくことを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族の理解を得ているが、現在は徘徊で目が離せない利用者もいる為、鍵をしめている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前のアセスメントシートにより、把握するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	タブレットを活用し、記録をこまめにとっており、異常の早期発見につとめている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師に健康面での相談はいつでもできる。夜間もオンコール体制がきちんととれている。看護師と情報の共有を行い、重度化の防止につとめている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医がある場合は、家族の意向等伺い希望する病院への受診を継続している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけ医がある場合は、家族の意向等伺い希望する病院への受診を継続している。必要に応じて、入居者の状態を伝える等して関係を築いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	実施できている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	実施できている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	実施できている。看護師が日頃から密に病院側と連絡をとっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	何でも相談できる関係が築けている。また、看護師の方からも記録を確認し、情報を収集している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間のオンコール体制がきちんととれている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	看護師が毎日職員からの聞き取りと、入居者の健康状態を確認しにユニットまで足を運んでおり、体調に異常があった場合は早期発見に努め、主治医へ連絡をしている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の種類等は把握しているが、副作用等については十分理解できていない。本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬を防ぐためのマニュアルを作り、それに沿って服薬介助を行っている。必ず2人でチェックを行い薬袋の確認をしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態に変化や不調の兆しがあれば随時看護師に報告し相談している。必要があれば、主治医に連絡して指示を仰いでいる。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化になった時点で家族に現時点での体調についてと、今後たどるであろう経過と家族の以降の確認をとっている。新しく入居される方に関しては、入所時に説明するようにしている。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	入居者が看取りになった時点でカンファレンスを行い、家族、各専門職で今後の方針を話し合い情報を共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	職員の不安や疑問にはその都度寄り添い思いを共有しつつ、支援の方向性や限界を見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	実施できている。入所時にも説明しているがその都度、家族と話し合いをして理解を得る努力をしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	実施できている。看護師が医療の窓口となり、必要に応じて主治医と連携をとっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	実施できている。家族には定期的に様子を知らせる等して、心の準備ができるよう、また不安や悲しい気持ちに寄り添うよう配慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修や定期的な勉強会で、勉強している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルが準備されている。対応方法については、時期ごとに再確認をしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	朝礼や委員会でも報告し、周知するようにしている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	実施できている。手洗い、うがいに加え出勤の前後には検温して体調確認を行っている。面会の家族についても同様で、チェック表の記入、検温を実施してもらっている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話している。	/	/	/	事業所を開設して、間もない時期にコロナ禍となり、年1回家族会を開催していたが、その後は休止状態が続いている。事業所内の行事やイベントにも、家族が参加する機会を作れないまま、現在に至っている。また、法人の方針もあり、感染対策で一定の面会制限が設けられ、現在は週1回30分の予約制の面会となっている。また、事業所では、隔月で「ほのぼの通信」を発行し、事業所の行事のほか、多くの利用者の日々の様子の写真を掲載するなど、家族に喜ばれている。さらに、事業所の運営上の事柄は、運営推進会議で報告しているものの、会議に参加する家族は1名のみになり、会議の内容も報告できていないため、家族から十分な理解が得られていない状況となっている。利用者と一緒に支え合う家族に、事業所の取り組みを理解して協力が得られるように、会議により多くの家族の参加を促したり、会議の内容を全ての家族に伝えたり、職員の入退職や異動を伝えるなど、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	散歩や受診外出などで協力していただいている。個別の外出では、ご家族にも参加の有無を確認している	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	隔月で「ほのぼの通信」を作成し、送付している。面会時には行事等での様子をお伝えしている。インスタグラムにも掲載している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	支援するよう心掛けている。認知症の為分からなくなったこと、出来なくなったこと、本人の家族への思いなど機会があれば伝えるようにしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	外出行事や、費用の掛かるイベント参加などは、都度ご家族に確認をしている	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後の起こりうるリスクについては、できるだけ事前にお伝えするようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には入居者と一緒にイベント時や普段の様子などを伝えている。お茶の提供などもしていたが、現在はコロナの為実施していない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	出来るだけわかりやすくお伝えできるようにしている。必要に応じて文書を送っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	希望があれば対応している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立段階から、説明や理解を図っている。	/	○	/	以前は、複合施設の夏祭りに、地域住民が参加したり、施設内にある地域交流サロンを地域住民に開放したり、ボランティアの受け入れに協力することもできていたが、感染対策で活動を休止するとともに、地域行事への参加も自粛している。また、令和6年の秋祭りには、神輿の来訪はあったものの、祭りまでには参加できていない。利用者と一緒に事業所周辺を散歩する際に、職員は通りがかりの近隣住民への挨拶を心がけるなど、住民に事業所を認識してもらえるように働きかけをしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	お祭りや盆踊りなどには利用者と一緒に参加させていただいている。近所に入居者の方と一緒に散歩をする時はあいさつをして簡単な会話を楽しむようにしている	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	なにかあった時には、支援して下さる方もたくさんおられると思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	事業所として「ふらりカフェ」を行い近所の人気軽にコーヒーを飲みに来る機会を作っている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	△	あいさつ程度のお付き合いとなっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域施設(なかよし村)とも交流しており、バザーなどのお誘いを受けている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣施設のイベント・盆踊りなどに参加させていただくこともある。外出等で地域のお店にも協力していただいている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はないが、家族や地域の方には参加してもらっている。	○	/	△	感染対策が続き、運営推進会議の書面開催が続いていたが、集合形式の会議が開催できるようになっている。会議は、併設の小規模特養老人ホームと合同で開催している。感染対策や会議の書面開催が続いたこともあり、利用者は参加しておらず、家族の参加も1名のみで留まっている。また、会議の議事録を玄関に置いているものの、一定の面会制限も設けられ、家族までには十分な情報が伝わっていない。遠方や日中に仕事をしている家族もあり、家族への開催案内も3名のみで、併設施設との合同開催のため、一定の制限が設けられていることも理解することはできるものの、今後は、全ての家族に議事録を送付し、事業所の取り組みについてより一層の理解が得られるように、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	自己評価・外部評価の結果を含め、運営推進会議で報告している。施設玄関やグループホーム付近にファイルを置いていつでも閲覧できるようにしている	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	会議の開催ができるようになり避難訓練の様子を報告したり琵琶の収穫やフラワーアレンジメントなど入居者の好みにあわせ実施している	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念については、職員会などで重ねて確認をするようにしている。	/	/	/	法人として、独自の基礎介護テキストを作成し、計画的に内部研修を実施したり、職員の能力等に応じた外部研修へ参加する機会を設けたりするなど、スキルアップや資格取得の支援をしている。また、年1回ストレスチェックを実施するとともに、外部機関の相談支援体制を整え、定期的に研修を実施するなど、職員のストレス軽減に努めている。さらに、面談を希望する職員に対して、管理者や施設長と一緒に対応し、職員から意見や思いの聞き取りをしている。加えて、法人内の異動もあり、長く勤務する職員はいるものの、近年は短期間で退職する職員がいるなど、慢性的な人材不足は解消されていないこともあり、ユニット出入り口の施錠などにも繋がっている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ご家族には、入所時・家族会などで説明させていただいている。利用者・地域の方には、あまりかまっては話できていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	基礎介護勉強会等を通じて、内部研修は計画的に実施するようにしている。外部研修も、偏りがないうち配慮しながら、内容に応じて参加している。	/	/	/	法人として、独自の基礎介護テキストを作成し、計画的に内部研修を実施したり、職員の能力等に応じた外部研修へ参加する機会を設けたりするなど、スキルアップや資格取得の支援をしている。また、年1回ストレスチェックを実施するとともに、外部機関の相談支援体制を整え、定期的に研修を実施するなど、職員のストレス軽減に努めている。さらに、面談を希望する職員に対して、管理者や施設長と一緒に対応し、職員から意見や思いの聞き取りをしている。加えて、法人内の異動もあり、長く勤務する職員はいるものの、近年は短期間で退職する職員がいるなど、慢性的な人材不足は解消されていないこともあり、ユニット出入り口の施錠などにも繋がっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	経験のある職員が多いが、新人職員にはOJTを通じて、計画的に育成している。エルダーをつくる事で新人職員が相談しやすい環境を作っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境・条件の整備はできている。各自の向上心までは持っていないように感じる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会で今年度は会長をし、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。同業者との交流はもっと機会を増やす事が出来ればと考えている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	こころ塾の活用などで、ストレス軽減にとりくんでいる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、不適切ケア及び、それらを発見した場合の対応方法などについても周知している。	/	/	◎	法人として、3か月に1回身体拘束虐待防止委員会を開催するとともに、年2回身体拘束虐待防止の研修会を実施し、職員は虐待や不適切なケアの防止等の理解を深めている。また、「不適切ケア自己点検チェックシート」を活用して、毎回委員会を開催する際に、集計結果等を報告している。また、不適切なケアを発見した場合には、職員を交代して対応するとともに、管理者に報告し、ユニット会で話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	実施できている。毎月、ユニット会を実施してケアについて話し合いをしている他、日頃から気が付いたことを話し合えるような環境を作っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	実施できている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。	/	/	/	法人として、3か月に1回身体拘束虐待防止委員会を開催するとともに、年2回身体拘束虐待防止の研修会を実施し、職員は虐待や不適切なケアの防止等の理解を深めている。また、「不適切ケア自己点検チェックシート」を活用して、毎回委員会を開催する際に、集計結果等を報告している。また、不適切なケアを発見した場合には、職員を交代して対応するとともに、管理者に報告し、ユニット会で話し合う機会を設けている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。ユニット会などで、実際の事例を話し合うこともある。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	いまのところ、そのような要望はほとんどみられないが、実際に要望があった際には、きちんと対応していきたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	普段の仕事の中では馴染みがうすく、理解するのは難しい。いまのところ、相談等はない。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	いまのところ、相談等はない。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	意識不明等の急変に対してのマニュアルはあり、全体に周知しているが、怪我等個別のマニュアルはない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初任者研修で勉強した。消防署職員の救命講習(内部研修)にも、交代で職員が参加していく。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットとも整備されており、速やかに記入ができています。ただ、内容の閲覧までで、十分な検討まではできていない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	実施している。センサーマットや緩衝マットなど使用したり、歩行が不安定な方には歩行器を使用する、歩行時は見守り、手引きをするなど実施している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを整備している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に対し迅速に対応し家族との話し合いもスムーズにできたと思われる。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	家族に丁寧な経過報告を行い納得してもらいながら関係を作れたと思う	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	◎	/	○	日々の関わりの中で、職員は利用者の話に耳を傾けて、意見や要望を把握するよう努めている。家族からは、来訪時や電話連絡時等に職員が声をかけて、意見や要望を聞くようにしている。また、日常の業務の中で、管理者は職員から意見や提案を聞くとともに、ユニット会でも意見交換の場を設けられるなど、職員は気軽に相談や話をする事ができる環境が整っている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初だけしか情報提供できていない	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	機会を作るようにしている	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場に入り、実際のケアにあたりながら、職員とも意見交換や指導を行っているがもう少しみんなの意見を聞き検討する必要があると思う	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は数人の職員で行った。実施後の振り返りは全員に周知した。	/	/	/	事業所では、前々回も目標達成計画に挙げて取り組んだものの、全ての職員が参画して、自己評価を実施することまでには至っていない。また、外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画を運営推進会議の中で報告するとともに、職員にも周知して目標達成に向けて取り組んでいるが、取り組み状況の報告までは行っていない。会議に参加できていない家族までには、会議の報告はできておらず、家族会も休止状態が続いており、今後は目標達成に向けた事業所の取り組みを運営推進会議で報告するとともに、サービスの評価結果の要点をまとめて、全ての家族に送付したり、目標達成の取り組み状況のモニターを依頼するなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成しているが、今回、アセスメントシートを担当職員にも協力してもらうことができた。記録に対する意識はタブレットの導入もあり不十分だった	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族会や運営推進会議で報告し、実際に取り組んでいる。今年は、コロナ流行の為、家族会を実施できていない。	○	×	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	家族会や運営推進会議で報告し、実際に取り組んでいる。今年は、コロナ流行の為、家族会を実施できていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災時の対応マニュアルは作成している。そのマニュアルに準じて、他の災害時にも行動できるように伝えていきたい。火災・地震の防災訓練を実施した。	/	/	/	複合施設として、各種の災害マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、年2回消防避難訓練を実施している。感染対策を含めた事業継続計画も作成している。また、複合施設は市行政から福祉避難所に指定され、食料等の備蓄品を用意している。複合施設内での合同訓練の実施はできているものの、感染対策が続き、地域の防災訓練に参加協力したり、地域住民と災害対応を話し合ったりすることまでには至っていない。利用者家族等・地域アンケート結果から、災害の備えに対して十分な理解が得られていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議や家族会を活用して、事業所の防災計画や防災への取り組みを周知したり、複合施設の避難訓練に家族等の参加を呼びかけたりするなど、家族や地域住民との協力支援体制の構築に向けて職員間で検討していくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災・地震の避難訓練を行っている。また夜間の通報訓練などを通して、行動マニュアルを周知するようにしている	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	ガリラヤ久米全体で、物品の用意・点検を行っている	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	避難訓練で、消防署の協力を得て、指導等いただいているが、地域住民との訓練や話し合いはできていない	x	x	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同上。合同訓練に参加した。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	x	グループホーム単体での情報発信や啓蒙活動はできていない	/	/	/	法人のホームページを活用して、広報啓発をしている。複合施設には、居宅介護支援事業所が併設され、認知症に関する相談対応もするなど、事業所として相談支援の場までは設けていない。入居希望での見学時に相談を受けた場合には、地域包括支援センターなどの適切な相談窓口に繋いでいる。また、事業所として、学生の実習受け入れや中学生の職場体験に協力するとともに、令和6年度から管理者がグループホーム交流会の会長としても活動するなど、平時から市行政や地域包括支援センター、関係機関との連携が図られている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	居宅支援事業所で支援を行っている。グループホームでは、入所希望者の見学や相談支援を行っている	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	グループホームとしては場所の提供等できていないが、地域サロンを活用して「ふらりカフェ」を事業所として行っている。地域の方の参加もある	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	東温市のガリラヤ荘と連携して、学生等の実習受け入れに協力している。中学生の職場体験にも協力した。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	グループホーム交流会で、今年度は会長をする事によって他のグループホームとの交流が持てたと思う。今年もお祭りの訪問に参加し楽しませていただいていた。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 11 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890101516
事業所名 (ユニット名)	グループホームガリラヤ久米 西通り1丁目2番地
記入者(管理者) 氏名	西岡 忍
自己評価作成日	令和 6 年 11 月 5 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 『今、ここで生きている人々に寄り添うことを使命とする』</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①普段のケアの中での、利用者の表情や反応などをこまめに記録していく。問題点や出来なかった事だけではなく、良かったこと・嬉しそうだったことなどの記録を意識する。 ・タブレット導入で慣れない為、日々の記録をするも良い事の記録まで実際記録するのは難しかった。 ②アセスメントシートの評価と記載は担当職員にも協力してもらい複数職員で評価する ・アセスメントシートは各担当の職員に評価してもらいその後管理者や計画作成担当者、看護師と複数で行うことができた。 ③次回の評価時には、部分的に一般職員にも自分たちのケア内容について評価できるように協力してもらい ・複数での評価は難しいが一部の職員に評価を見てもらい一緒に考える事が出来た。全職員と行うのは難しかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内中心部から少し離れた郊外にある事業所は、小規模特別養護老人ホームや介護付き有料老人ホームなどが併設された3階建ての複合施設の1階部分にある。歴史ある社会福祉法人の運営理念「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」をもとに、事業所の基本理念を「今、ここで生きている人々に寄り添うことを使命とする」として、職員は利用者により寄り添った支援を実践している。開設3年目の令和2年からコロナの感染拡大が始まり、現在まで法人の方針により、一定の面会や外出の制限が設けられた状態が続いているものの、中庭にあるプランター菜園で野菜作りをしたり、敷地内の堀に泳ぐ鯉に餌をあげたり、事業所周辺を散歩するなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、併設施設から転居に繋がる利用者があるなど、高齢化や重度化の進行に伴い、自分でできることが少なくなってきているものの、職員は利用者の得意なことやできることを探し出し、少しでも役割や出番を担ってもらいながら、楽しみのある生活が送れるような支援に取り組んでいる。さらに、複合施設の看護師や協力医療機関との連携が図られ、重度化した場合には、利用者や家族の希望に応じて、看取り支援を実施している。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	認知症の進行に伴い会話やコミュニケーションが難しくなっている。家族の意向や本人の表情や様子を観察する事で希望や意向の把握に努めている	◎	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談し、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後にも、日々の会話や暮らしの様子などから、利用者の思いをくみ取るよう努めるとともに、家族に情報を報告して、確認するようにしている。また、前回の目標達成計画に挙げて、利用者の思いや意向の把握や記載の漏れがないように、全ての職員で取り組んでいる。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	認知の為、意向の把握が難し時は生活歴や職歴、本人の生活などを考慮しつつ、本人の心地よい状態や環境という視点で検討している	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人の生き方や大切にしてきたものを家族から聞く事で、本人の思いを推察している	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	記録はとっているが、ほぼ生活の記録となっており「暮らし方への思い」という面では具体性に欠けている	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の表情や行動、言葉から気持ちを推察し、どうしたいか伺いながら対応するように気を付けている	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に本人や家族、介護支援専門員などから話を伺いどのような生活環境で過ごされてきたかを知るようにしている	/	/	○	独自の「トータルケア・アセスメントシート」を活用して、入居時に、管理者等は利用者や家族と面談し、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわり、生活環境等の聞き取りをしている。これまで関わりのあった介護支援専門員や関係機関の担当者等から、サービス利用の経過等を聞くとともに、サマリーなどの情報を提供してもらうこともある。把握した情報は、アセスメントシートに記載し、職員間で共有をしている。また、日々の生活の中で、新たに把握した情報は赤色や青色の文字で追記するとともに、毎年アセスメントシートの情報を更新している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活歴や得意なことを活かし出来そうなことを試しながら把握している	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の様子やカンファレンスなど職員同士、情報を共有し把握している	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人からの訴えや家族の希望、日々の会話の中で望んでいることに近づけるように観察し検討している	/	/	○	事前に利用者や家族から希望や意向を聞くとともに、主治医や看護師から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員間で利用者本人の視点に立って、より良いサービスなどを検討している。必要に応じて、薬剤師や栄養士等の専門職から意見を聞くこともある。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	カンファレンスを行い情報の共有することで課題の把握に努めている	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常会話を通して思いや意向を話し合っているが、具体的内容はなかなか引き出せていない。出来る範囲で、本人の気持ちに沿えるよう努力している。	/	/	/	利用者や家族の希望や意向を踏まえて、カンファレンスの中で、日々の暮らしの様子から得られた課題を職員間で検討している。把握した情報や職員から出された意見やアイデアを反映して、計画作成担当者が介護計画の原案を作成するとともに、家族に説明して了承を得ている。また、利用者の状況に応じた検討が行われ、課題解決に向けた個別具体的な計画作成に努めている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	スタッフ間では常に情報を共有して、アイデアを出し合いながらケアに臨んでいる。家族に協力してもらい家に帰るなど本人の思いも尊重している	○	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者の体調面を考慮しながら、本人が今まで楽しんでた活動は少しでも継続できるように考慮している。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力については難しい家庭もあるが、協力が可能な家族に対しては面会や受診を通して協力をお願いしている。地域との協力体制は現状難しく計画の中には盛り込めていない。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス等で情報共有しており、内容についても確認している。ケアプランをファイルして共有している。	/	/	/	○ 一人ひとりの利用者の介護計画の内容は、職員が参画したカンファレンスで検討して共有するとともに、ファイルに綴じられ、いつでも確認できるようになっている。以前は1週間分の総合記録シートに、看護や介護の内容、介護計画に沿った実践内容等を記録していたが、現在は介護ソフトが導入され、タブレットで職員は入力できるようになり、計画に沿ったケアの実践や特記すべき事項などの記録ができるようになっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	状況確認については、特に変わった事があれば記録に残している。介護計画を実践する上で難しかったり、変更が必要であればその都度、話し合っている	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	通常は3か月毎に見直しを行っている。入院など特別に状態に変わりがあれば3か月以内であっても見直しを実施している。	/	/	/	◎ 介護計画は3か月に1回見直しをしている。また、3か月に1回介護計画の更新時に評価を実施している。新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月実施するユニット会の中で、一人ひとりの利用者の現状を確認するとともに、3か月に1回モニタリングを行い、評価をしている。また、利用者の心身状態に変化が見られた場合には、状況に応じて関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のユニット会でカンファレンスを行い、現状確認や問題提起、ケアの変更等話し合っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	実施している。心身の状態に大きな変化があった場合には見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	問題が起きた時にはその都度スタッフ間で話し合いを行い、ケアの方向性や方法を検討している。時差勤務の為、ユニット会以外での会議は難しい。	/	/	/	◎ 月1回ユニット会を開催し、利用者の現状確認や個別カンファレンスを実施するとともに、各委員会の報告や業務連絡など、職員間で情報共有をしている。また、各ユニットの会議の日にちをずらし、両方のユニット会に、管理者と計画作成担当者が参加できるようにしている。緊急案件が生じた場合には、その都度出勤職員で話し合いをしている。ユニットの全ての職員を会議の参加対象として、事前に会議の開催日時を設定をしている。業務等で会議に参加できなかった職員には、会議録を回覧して周知し、共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ同士で些細な事でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。お互いの意見を尊重し、相手の話を聞く姿勢を持つようになっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	ユニット会を毎月実施している。業務や行事の都合で開催が難しいと思われる時は、その都度日程調整を行い周知している。会議録を回覧している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員が出勤した際に、早出がその日の申し送りをを行う。また大切な内容は日誌や記録シートに記録し、翌日以降の出勤者も内容が把握できるようにしている。ケアの変更などは連絡ノートに記入する。	○	/	◎	タブレットの介護ソフトの情報のほか、法人全体や各ユニットの連絡ノートを活用して、職員の勤務交代時に申し送りを実施し、情報を伝達している。また、出勤時等に連絡ノートなどを確認し、職員はサインをする仕組みづくりが行われ、全ての職員に確実に情報が伝わるようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	入居者の重度化に伴い自身で「したい事」を決めるのは難しい状況となっている。逆に毎日のルーティーンを実施する事で落ち着いて生活出来ている入居者が多くなっている。	/	/	/	○ 生活の様々な場面で、職員は利用者へ声をかけ、選択や自己決定ができるよう支援している。高齢化や重度化に伴い、自己決定が難しい利用者が増えてきているものの、職員は状況に合わせて、選択肢を二者択一に絞って飲み物や着る服などを提示し、表情やしぐさを観察して、選んでもらうように工夫をしている。また、朝の起床時間や食事の時間を一律にすることなく、一人ひとりの利用者の生活リズムや希望に合わせて起床してもらうなど、習慣や希望を尊重した支援も行われている。さらに、職員が利用者へ声をかける場合には、笑顔で明るい声かけを意識するとともに、利用者の性格や好みに合わせた話題提供を心がけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	機会があれば二者択一できるような問いかけをしているが、認知症の為選ぶ事自体が難しくなっている。問いに対して「わからん」「どっちでもええ」と答える事が多い。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	機会があれば二者択一できるような問いかけをしているが、認知症の為選ぶ事自体が難しくなっている。問いに対して「わからん」「どっちでもええ」と答える事が多い。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	入居者に接するときは明るい表情と声を心掛けている。また一人ひとりの性格や好みを把握し、どう接すれば喜んでくれるかも踏まえて対応している。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や言葉から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう気を付けている。また、生活のパターンからおおよその検討をつけ、トイレに誘導したり、間食を準備するなど不安や不快な状態を長引かせない努力をしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	拘束虐待委員会の活動を通して人権や尊厳についての意識を高める努力をしている。入居者の方々に対しては、共生の意識をもって、自尊心を大切にされた対応を心がけている。介護や誘導の声かけは、声の大きさやタイミングなどに気をつけている。	◎	◎	◎	◎ 定期的に、身体拘束虐待防止委員会や勉強会を開催し、職員は人権や尊厳、プライバシーなどを学び、意識した対応に努めている。管理者は、「概ね職員が意識した声かけや行動ができています」と感じているが、時には、大きな声や不適切な声かけをする職員の様子も見られ、その都度注意喚起をしている。また、居室の入室時には、事前に職員がノックや声かけをしてから入室することを基本として実践ができており、不在時にも、事前に利用者へ入室する目的を説明し、了解を得てから入室をすることができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	入浴は個浴なのでゆっくりと関わりながら行っている。トイレは居室についており、安心して使用して頂いている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際は、どういった用事で入るのか説明している。また、本人が在室の際は、ノックをして声をかけてから入室している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法令順守の勉強会を実施しており理解している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来る事、得意な事を生かせる場を作るようにしているが、不十分。お互いに「ありがとう」という言葉が日常的によく聞かれている。タオルを干す畳む手伝いをお願いしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性や性格を把握し、トラブルにならないよう配席等の留意をしている。中には、重度の認知症で、自分の居室が分からない利用者もおり、居室前にテーブル席を配置して居室のドアを開放するなど、他の利用者が居室に間違えて、無断で入らないように工夫をしている。また、食事の際に仲の良い利用者同士が、場面の変わったレクリエーションや作業の場面で言い合いなどのトラブルになる場面が見られることもあり、場面に応じて配席を変えるなどの対応をしている。さらに、ほとんどの利用者は女性で、男性利用者は1名のみで、移動の動作が不安定なこともあり、日頃は居室の入り口付近に一人で配席をしているものの、レクリエーションの際には、他の利用者と同じ場所に移動して、職員は利用者が孤立することなく、楽しく過ごせるよう配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解できている。そうなれるよう、努力しているが、認知症の進行の為、他者との関係づくりが難しくなっている現状もある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	おのおのの性格や生活歴を把握して、主導権を渡しつつもトラブルにならないよう声掛けをしたり、距離感を調節したりしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	善悪ではなく、可能なら相手の気持ちや状態を伝え理解を求め。難しいようなら、しばらく物理的に距離を置くなどで気持ちが収まるのを待つ等ケースバイケースで対応する。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時の聞き取りで確認しているが、細かいところまでは十分分かっていない。個別外出の計画時などに確認していた。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会に来られる方との交流はあるが、ホームから出向くことは少ない。コロナの為、状況により、直接面会やタブレット等を使用した面会などを実施している。ただ、画面越しでは理解が難しい利用者の方も多い。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外出希望が希望ある場合職員付き添い近所を散歩する、鯉に餌をあげに行くなど外に出るよう努めている。家族にも協力してもらいお昼ご飯を家族と一緒に馴染みの物を食べるなど協力を得ている	○	○	○	現在まで法人の方針により、一定の面会や人混みの外出などの制限が設けられた状態が続いているものの、利用者がなるべく閉塞感を抱かないように、日頃から中庭にあるプランター菜園で野菜作りをしたり、敷地内の堀に泳ぐ鯉に餌をあげたり、事業所周辺を散歩するなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、少人数の利用者に分かれて、ドライブなどの外出支援も行われている。さらに、希望に応じて、家族との外出や外食にも、柔軟に対応している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	盆踊りなど地域の行事に参加する際、協力を得ている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の勉強会へ参加し知識の向上に努めている。日々の観察から、周辺症状が現れた時には、話し合いながら原因を究明し、安心して生活できるように取り組んでいる。また、困難事例カンファにて検討し、内容を周知している。	/	/	/	勉強会やユニット会の中で、職員は認知症や症状を学び、症状の進行に伴う身体面の機能低下などの理解を深めている。また、複合施設の小規模特養には作業療法士が配置され、マッサージや物理療法を実施するとともに、日々の体操を継続するなど、利用者の身体機能の維持を図れるよう努めている。職員は見守りや必要以上に手助けしない「待つ介護」の重要性を理解しているものの、時には優しい気持ちからできることにも、つい職員が手や口を出してしまう場面も見られ、管理者は注意喚起している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリや体操、散歩等を行い、今の機能が維持できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	出来るだけ自身で出来るよう、声掛け、見守りを行っているが、つい手を出してしまう場面が多い。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個性や能力を踏まえて、役割をお願いしている。	/	/	/	事業所では洗濯を業者に外注しているものの、戻ってきたタオルのシワを伸ばしてたたんだり、複合施設の厨房から食事が届けられるが、食後にコップ洗いやお盆拭きをしたりするなど、利用者のできることを手伝ってもらっている。また、職員は一人ひとり利用者のできることや得意なことを把握し、ほつれた服等を縫ってもらったり、包丁を使用して器用に柿の皮を剥いで干し柿作りをしたりするなどの支援も行われている。利用者のできる役割や得意なことを活かして手伝い、手伝ってもらった後に職員は感謝の言葉を伝えることで、利用者の出番や喜びに繋がるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	どの方も、何かしら得意な事や出来る事があり、他者からも認知されるよう声掛けや感謝の意を表現するようにしている。	◎	○	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	家族が本人の好みに合うであろう衣類や小物を準備されているので、それを踏まえて理解している。				全ての居室には洗面台やトイレが設置され、食べこぼしによる衣服の汚れや口腔ケア時には居室に戻るため、他の利用者の目を気にすることなく、移動して着替えをすることができている。食事の際に、エプロンを使用することなく、タオルを掛けて食べこぼしに対応するなど、職員は利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。また、利用者に希望の髪型を聞いて、訪問理美容で対応するとともに、家族の協力を得て、馴染みの美容室に出かけて、髷そりやヘアカラーなどに対応する利用者もいる。訪問調査日には、重度の利用者も、髪型や装いに違和感がなく、身だしなみや整容を整えることができていた。さらに、化粧水やクリーム、ヘアオイルなどにこだわりがある利用者もあり、家族の協力を得て対応している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自宅で使っていたものを持ってこられており、本人の好みのもと思われる。こだわりのある方には、その都度対応している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に相談しながら行っている。決められない場合は二者択一など、決めやすいよう対応しているが認知症の進行の為それも難しい場合もある。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族にも協力してもらいその人らしい服装を支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできりげなくカバーしている。(髷、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れがあれば、自室で新しいものと交換している。不都合なことは、他の入居者が気が付かないよう、そと対応している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があれば対応している。現在は訪問理美容を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	希望があれば対応している。現在は訪問理美容を利用している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	おおよそ理解している。				法人の管理栄養士がバランスなどを考慮した献立を作成し、複合施設の厨房でまとめて調理された食事が事業所に届けられ、利用者に提供をしている。利用者の状況に合わせて、刻みなどの食べやすい食の形態に対応するとともに、主食の量の調整や補助食が個別に届けられ、事業所で一口大にカットするなどの対応も行われている。食後に、利用者は湯飲やお盆を洗ったり、食器を拭いたりするなど、後片付けを手伝ってもらっている。月1回程度、職員が材料の買い物に出かけて、利用者と一緒におやつを作ることもある。毎月開催する法人の給食委員会の中で、食事内容やイベント食、行事食等を話し合い、季節感のある旬の食材を使用した食事が提供されている。利用者のアレルギーの有無は、事前に栄養士に伝えられ、代替の食材を提供している。食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用しているが、湯飲は事前に持参した物を使用している。事業所では、職員の休憩時間を確保するために、以前から利用者と別々に食事は摂るようになっており、食事の際に、職員は見守りやサポートに専念している。手作りのおやつを提供する際には、利用者と職員と一緒に食べることもある。また、重度の利用者には、職員が隣に座り、献立の説明をしながら食事介助をしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	施設で作った食事を提供しているが、おやつなどで一緒に準備・調理をしている。コロナの流行で現在は回数は少ないが行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	コップを洗うお盆を拭く、おやつ作りで食材を切るなどできる事をしてもらうように努めている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	おおよそ把握している。苦手なものは替わりのものを提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	毎月の誕生日の祝い膳として、ちらしずしが出たり、季節ごとの行事食が提供されている。流しそうめん、芋炊き、鍋などできる範囲で季節を感じ取れる取り組みを行っている。ユニットで出来る範囲でおやつは果物やいも、和菓子など季節感のあるものを提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	施設として対応している。普通食、柔らか食、ソフト食があり入居者の嚥下状態や体調に合わせて提供している。低栄養の方にはエンジョイゼリーなどの補助食が提供される。盛り付けもメニューによって工夫してもらっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	湯飲みコップは個人の物を使用している。他は厨房がある為施設の物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナの為、一緒に飲食をすることは控えている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	コロナの流行の為自粛していたが、最近はおやつ作りから少しずつ実施している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	施設食の為、栄養士が管理している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分が進まない入居者には施設で作るゼリーで代替したり、栄養状態に合わせて、個別で補食を提供するなどして対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立や調理については栄養士が管理しているが、毎月給食委員会を開催しており、栄養士と職員が食事について話し合う場を設けている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	遅食の場合は冷蔵庫で保管後、2時間を限度とする、毎週冷蔵庫の掃除、消毒をするなどルールを決めて衛生管理を実施している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会等に参加し理解している。	/	/	/	起床時や毎食後に、職員は声をかけ、利用者は口腔ケアを実施している。居室内にある洗面台で歯磨きをする利用者が多く、毎回、自分で歯磨きをする利用者の口腔内の確認まではできていないものの、月1回程度、職員が口腔内を確認するようにしている。年1回、歯科衛生士による口腔内のチェックと指導を受けるなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。また、利用者の状況に合わせて口腔ケア用品を使い分けるとともに、口腔内に異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	仕上げ磨きの時に確認するよう気を付けているが、隅々まで把握するのは難しい状態である。臭いや出血などがあれば特に注意して、必要であれば訪問歯科を利用している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修や勉強会等で学んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日1回の消毒、毎食後の洗浄を支援している。難しい入居者については、夜間義歯を預かり管理している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	△	起床時、毎食後の歯磨きを励行している。うがいが難しい入居者にはリステインを使用し、スポンジブラシでふき取るようにしている。自身で歯磨きをされている方の、口腔内の観察や記録は不十分。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	施設内の勉強会や外部研修に参加し、理解を深める努力をしている。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。夜間のみ、紙おむつを使用している1名の利用者がいるものの、日中は紙パンツを使用している。また、職員がこまめな声かけやトイレ誘導などを行うことにより、布パンツを履いている利用者も数名いる。また、一人ひとりの利用者の排尿パターンを把握し、様子を見ながらトイレ誘導をするとともに、記録を残すことで排泄の状況が一目で確認できるようにしている。さらに、職員は便秘の及ぼす影響を理解するとともに、水分や食物繊維を摂取したり、運動や腹部マッサージなどを取り入れたりするなど、自然な排泄を促せるように取り組んでいる。加えて、排泄用品の使用は、利用者の排泄状況に応じて職員間で検討するとともに、使用や変更する場合には、事前に職員から家族に説明をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解している。不穏時は、排便状況との関連を意識しながら、ケアにあたっている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)		記録に残すことで把握できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日中と夜間を使い分けたり、体調によって変更するなどしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレの場所が分からない等、認知の為支障となっていることがあれば、表情や様子を見て誘導するなどしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	食事や散歩の前など、本人のタイミングに合わせて声掛け誘導を実施している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	状態に合わせて職員が家族や本人に提案し了解を得ている。使用済みパッドの扱いなどから、衛生面を考慮し、職員主導で選定する場合もある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	実施している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ファイバーや水分摂取、運動、腹部マッサージ、ホットパックなど実施している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	おおよそは決まっているが、希望があれば応じている。	◎	/	○	両ユニットの間に、一般浴室とリフト浴室が並んで設置され、各ユニットで午前と午後を交代しながら使用している。利用者の状態に合わせて、リフト浴を使用し、安心安全に利用者が湯船に浸かれるよう支援するとともに、職員の負担軽減にも繋がっている。また、浴室には浴室暖房や床暖房の設備が設置され、利用者は温度差を感じることなく、入浴できるようになっている。脱衣所には、前傾姿勢を保持できるファンレストテーブルを設置するとともに、床はコルクタイルで、水分を吸収し温かく快適な環境となっている。利用者が入浴できる曜日や時間帯は概ね決められているものの、希望や体調等に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さなどに対応するとともに、日にちや時間帯を変更することもある。週2回程度、利用者は入浴することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯かけんや入浴時間など本人に合わせて実施している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗体、洗髪、浴槽へのまたぎなど、出来る範囲で自身で行ってもらっている。座位機械浴も活用している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	本人が納得できるような言葉がけをして誘っている。拒否が強い場合は、時間をずらしたり、日をかえたりしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定している。入浴後はバイタルは測定していないが、声掛け、目視で体調に変化が無いか確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	睡眠時間や様子を記録に残しており把握できている。	/	/	/	現在、眠剤を服用している数名の利用者がいるものの、できるだけ服薬に頼らず、日中に散歩や運動を取り入れて活動量を確保したり、就寝のタイミングを利用者の生活リズムに合わせるために居室でテレビを観たりするなど、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。夜間に寝つきの悪い利用者には、職員と一緒にリビングで会話をしながら過ごしてもらうこともある。中には、医師に睡眠状況等を相談し、緩下剤を変更することで良眠が得られるようになった利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	散歩やレク活動で日中の覚醒を促している。眠くなるまで時間がかかる方や中途覚醒して眠れない方は眠くなるまでテレビを見て過ごすなどしてもらう。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中は散歩したり、簡単な作業をするなどして退屈しないよう取り組んでいる。不眠が続く方については看護師に普段の様子を報告し、主治医と相談しながら薬の調整を行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	実施している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	認知症の為、自ら手紙や電話のやり取りは難しくなっている。友人から手紙が来たり、家族から電話の支援を実施している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	携帯を持っている入所者の方は家族からの手紙が届くと職員が間に入り電話をすることがある	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	可能な限り希望に合わせて電話の対応をしている。一人でも電話で話せる入居者に対しては自由に話してもらい、時々様子を見るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙や葉書は、一緒に読むなどした後、居室に飾るように置いている。認知症の為難しい方も多く、返信のアプローチはできていない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	携帯電話を使用する入居者もいるので家族に協力、理解はその都度お願いしている。面会時に家族からの手紙を残してもらうなどお願いすることがある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	週に2回移動販売が来ており、主に利用している。それ以外は大型スーパーを利用することになり理解や協力はお願いしていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族の判断でお金の所持はしていない。お金を使う事があれば、施設立て替えで対応している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話をして納得してもらっている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	必要なものがあるときや本人が買い物や外出で現金が必要な時は、家族に連絡し、施設立て替え等の許可をもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来る範囲で要望には応じている。	◎	/	○	感染対策が続き、一定の外出や面会の制限は設けられているものの、家族との外出や外食には柔軟に対応している。また、利用者や家族の希望に応じて、自宅での洗濯やかかりつけ医の受診など、柔軟に対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	複合施設の為、玄関や建物周囲は施設が工夫している。	◎	◎	○	事業所は、小規模特別養護老人ホームや介護付き有料老人ホームなどが併設された3階建ての複合施設の1階部分にあり、玄関を共有して使用している。敷地内には広い駐車場が整備され、車での来訪がしやすくなっている。また、玄関スペースも広くて明るく、1階事務所にいる職員が来訪者に声をかけてくれるなどの対応をしている。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	木材を使用した、温もりのある環境が整えられている。利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾を工夫している。	◎	◎	○	ユニット内は、木調の内装で落ち着いた雰囲気を感じられる。壁面には、利用者と一緒に作成した季節のクラフト作品が飾られ、利用者は季節を感じることができる。また、両ユニットの間にある中庭テラスにプランターを置き、利用者と一緒に野菜や花を育てたり、敷地内にある堀の鯉に餌をあげたりすることは利用者の楽しみの一つとなっている。さらに、感染対策のため、食事の際のテーブルは一列に配置しているものの、レクリエーションや作業等の状況に応じて、テーブルの配置を変更している。加えて、事業所内は掃除が行き届き、加湿器やオゾン発生装置等の空調が設置され、床暖房の設備もあるなど、快適な空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	職員が中心になっているが、毎日日課として掃除をして清潔を保っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾や季節の花を飾っている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う入居者同士で過ごしてもらったり、個別のテーブルで好きなレクに取り組んでもらっている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使っていた家具や装飾品、写真などを持参利用している。入居後は家族が持参された花や写真を部屋に飾っている。	◎		○	居室にはベッドや床頭台、エアコンなどが設置されている。全ての居室には、トイレと洗面台が備えられ、利用者は生活を送りやすくなっている。また、利用者は自宅から使い慣れた家具やテレビなどを持ち込むこともでき、家族からプレゼントされた花や写真を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	必要に応じて、ベッドでの立ち上がりのためのL字バーや夜間の動向を把握するためのセンサーなどを設置して、自分でトイレに行く際は安全に配慮して見守りを行っている。リビングの座席・椅子や居室入口に目印や表札をつけることで、混乱しないように援助している。			○	バリアフリー構造の建物は、壁に沿って木製の手すりが設置され、廊下も幅広など、利用者が安心安全に移動できる動線が確保されている。また、居室の入り口には表札のほか、目印になるものを置くとともに、立体化した表札を取り付けるなど、利用者が自分の居室を認識できるように工夫をしている。さらに、居室内にあるトイレにも、分かりやすいようにドアに「トイレ」と大きく表示している利用者もいる。加えて、室内灯のリモコンや水栓のスイッチにも印を付けるなど、利用者に分かりやすく、迷わないような工夫も行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	ぬり絵など、個別の作品を綴ったファイルを作成し、リビングにて保管している。収集癖のある利用者の方がおり、さりげなく物品を配置することが困難である。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけていなかったが、現在は徘徊で目が離せない利用者もいる為、鍵をしめている。	◎	◎	△	職員は出入り口に鍵を掛けることの弊害を理解している。日中に玄関やユニットの入り口を施錠していない時期もあったが、利用者の重度化による徘徊や職員の勤務体制もあり、現在はユニットの出入り口の施錠をするようになっている。また、外に出ようとする利用者には、職員が付き添って敷地内や近隣を散歩したり、庭に出て鯉の餌やりをしたりするなどの対応をしている。複合施設の玄関の出入りは事務所の職員が対応していることもあり、事務所の職員の協力を得るなど、ユニット出入り口の施錠を解除できる時間を作るなど、施錠が常態化しないように職員間で検討していくことを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族の理解を得ているが、現在は徘徊で目が離せない利用者もいる為、鍵をしめている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前のアセスメントシートにより、把握するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	タブレットを活用し、記録をこまめにとっており、異常の早期発見につとめている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師に健康面での相談はいつでもできる。夜間もオンコール体制がきちんととれている。看護師と情報の共有を行い、重度化の防止につとめている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医がある場合は、家族の意向等伺い希望する病院への受診を継続している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけ医がある場合は、家族の意向等伺い希望する病院への受診を継続している。必要に応じて、入居者の状態を伝える等して関係を築いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	実施できている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	実施できている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	実施できている。看護師が日頃から密に病院側と連絡をとっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	何でも相談できる関係が築けている。また、看護師の方からも記録を確認し、情報を収集している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間のオンコール体制がきちんととれている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	看護師が毎日職員からの聞き取りと、入居者の健康状態を確認しにユニットまで足を運んでおり、体調に異常があった場合は早期発見に努め、主治医へ連絡をしている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の種類等は把握しているが、副作用等については十分理解できていない。本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬を防ぐためのマニュアルを作り、それに沿って服薬介助を行っている。必ず2人でチェックを行い薬袋の確認をしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態に変化や不調の兆しがあれば随時看護師に報告し相談している。必要があれば、主治医に連絡して指示を仰いでいる。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した時点で家族に現時点での体調についてと、今後たどるであろう経過と家族の以降の確認をとっている。新しく入居される方に関しては、入所時に説明するようにしている。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	入居者が看取りになった時点でカンファレンスを行い、家族、各専門職で今後の方針を話し合い情報を共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	職員の不安や疑問にはその都度寄り添い思いを共有しつつ、支援の方向性や限界を見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	実施できている。入所時にも説明しているがその都度、家族と話し合いをして理解を得る努力をしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	実施できている。看護師が医療の窓口となり、必要に応じて主治医と連携をとっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	実施できている。家族には定期的に様子を知らせる等して、心の準備ができるよう、また不安や悲しい気持ちに寄り添うよう配慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修や定期的な勉強会で、勉強している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルが準備されている。対応方法については、時期ごとに再確認をしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	朝礼や委員会でも報告し、周知するようにしている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	実施できている。手洗い、うがいに加え出勤の前後には検温して体調確認を行っている。面会の家族についても同様で、チェック表の記入、検温を実施してもらっている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話している。	/	/	/	事業所を開設して、間もない時期にコロナ禍となり、年1回家族会を開催していたが、その後は休止状態が続いている。事業所内の行事やイベントにも、家族が参加する機会を作れないまま、現在に至っている。また、法人の方針もあり、感染対策で一定の面会制限が設けられ、現在は週1回30分の予約制の面会となっている。また、事業所では、隔月で「ほのぼの通信」を発行し、事業所の行事のほか、多くの利用者の日々の様子の写真を掲載するなど、家族に喜ばれている。さらに、事業所の運営上の事柄は、運営推進会議で報告しているものの、会議に参加する家族は1名のみになり、会議の内容も報告できていないため、家族から十分な理解が得られていない状況となっている。利用者と一緒に支え合う家族に、事業所の取り組みを理解して協力が得られるように、会議により多くの家族の参加を促したり、会議の内容を全ての家族に伝えたり、職員の入退職や異動を伝えるなど、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	散歩や受診外出などで協力していただいている。個別の外出では、ご家族にも参加の有無を確認している	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	隔月で「ほのぼの通信」を作成し、送付している。面会時には行事等での様子をお伝えしている。インスタグラムにも掲載している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	支援するよう心掛けている。認知症の為分からなくなったこと、出来なくなったこと、本人の家族への思いなど機会があれば伝えるようにしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	外出行事や、費用の掛かるイベント参加などは、都度ご家族に確認をしている	x	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後の起こりうるリスクについては、できるだけ事前にお伝えするようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には入居者と一緒にイベント時や普段の様子などを伝えている。お茶の提供などもしていたが、現在はコロナの為実施していない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	出来るだけわかりやすくお伝えできるようにしている。必要に応じて文書を送っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	希望があれば対応している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立段階から、説明や理解を図っている。	/	○	/	以前は、複合施設の夏祭りに、地域住民が参加したり、施設内にある地域交流サロンを地域住民に開放したり、ボランティアの受け入れに協力することもできていたが、感染対策で活動を休止するとともに、地域行事への参加も自粛している。また、令和6年の秋祭りには、神輿の来訪はあったものの、祭りまでには参加できていない。利用者と一緒に事業所周辺を散歩する際に、職員は通りがかりの近隣住民への挨拶を心がけるなど、住民に事業所を認識してもらえるように働きかけをしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	お祭りや盆踊りなどには利用者と一緒に参加させていただいている。近所に入居者の方と一緒に散歩をする時はあいさつをして簡単な会話を楽しむようにしている	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	なにかあった時には、支援して下さる方もたくさんおられると思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	事業所として「ふらりカフェ」を行い近所の人気軽にコーヒーを飲みに来る機会を作っている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらいなど、日常のおつきあいをしている。	△	あいさつ程度のお付き合いとなっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域施設(なかよし村)とも交流しており、バザーなどのお誘いを受けている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣施設のイベント・盆踊りなどに参加させていただくこともある。外出等で地域のお店にも協力していただいている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はないが、家族や地域の方には参加してもらっている。	○	/	△	感染対策が続き、運営推進会議の書面開催が続いていたが、集合形式の会議が開催できるようになっている。会議は、併設の小規模特養老人ホームと合同で開催している。感染対策や会議の書面開催が続いたこともあり、利用者は参加しておらず、家族の参加も1名のみで留まっている。また、会議の議事録を玄関に置いているものの、一定の面会制限も設けられ、家族までには十分な情報が伝わっていない。遠方や日中に仕事をしている家族もあり、家族への開催案内も3名のみで、併設施設との合同開催のため、一定の制限が設けられていることも理解することはできるものの、今後は、全ての家族に議事録を送付し、事業所の取り組みについてより一層の理解が得られるように、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	自己評価・外部評価の結果を含め、運営推進会議で報告している。施設玄関やグループホーム付近にファイルを置いていつでも閲覧できるようにしている	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	会議の開催ができるようになり避難訓練の様子を報告したり琵琶の収穫やフラワーアレンジメントなど入居者の好みにあわせ実施している	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念については、職員会などで重ねて確認をするようにしている。	/	/	/	法人として、独自の基礎介護テキストを作成し、計画的に内部研修を実施したり、職員の能力等に応じた外部研修へ参加する機会を設けたりするなど、スキルアップや資格取得の支援をしている。また、年1回ストレスチェックを実施するとともに、外部機関の相談支援体制を整え、定期的に研修を実施するなど、職員のストレス軽減に努めている。さらに、面談を希望する職員に対して、管理者や施設長と一緒に対応し、職員から意見や思いの聞き取りをしている。加えて、法人内の異動もあり、長く勤務する職員はいるものの、近年は短期間で退職する職員がいるなど、慢性的な人材不足は解消されていないこともあり、ユニット出入り口の施錠などにも繋がっている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ご家族には、入所時・家族会などで説明させていただいている。利用者・地域の方には、あまりかまっては話できていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	基礎介護勉強会等を通じて、内部研修は計画的に実施するようにしている。外部研修も、偏りがないうち配慮しながら、内容に応じて参加している。	/	/	/	法人として、独自の基礎介護テキストを作成し、計画的に内部研修を実施したり、職員の能力等に応じた外部研修へ参加する機会を設けたりするなど、スキルアップや資格取得の支援をしている。また、年1回ストレスチェックを実施するとともに、外部機関の相談支援体制を整え、定期的に研修を実施するなど、職員のストレス軽減に努めている。さらに、面談を希望する職員に対して、管理者や施設長と一緒に対応し、職員から意見や思いの聞き取りをしている。加えて、法人内の異動もあり、長く勤務する職員はいるものの、近年は短期間で退職する職員がいるなど、慢性的な人材不足は解消されていないこともあり、ユニット出入り口の施錠などにも繋がっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	経験のある職員が多いが、新人職員にはOJTを通じて、計画的に育成している。エルダーをつくる事で新人職員が相談しやすい環境を作っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境・条件の整備はできている。各自の向上心までは持っていないように感じる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会で今年度は会長をし、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。同業者との交流はもっと機会を増やす事が出来ればと考えている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	こころ塾の活用などで、ストレス軽減にとりくんでいる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、不適切ケア及び、それらを発見した場合の対応方法などについても周知している。	/	/	◎	法人として、3か月に1回身体拘束虐待防止委員会を開催するとともに、年2回身体拘束虐待防止の研修会を実施し、職員は虐待や不適切なケアの防止等の理解を深めている。また、「不適切ケア自己点検チェックシート」を活用して、毎回委員会を開催する際に、集計結果等を報告している。また、不適切なケアを発見した場合には、職員を交代して対応するとともに、管理者に報告し、ユニット会で話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	実施できている。毎月、ユニット会を実施してケアについて話し合いをしている他、日頃から気が付いたことを話し合えるような環境を作っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	実施できている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。	/	/	/	法人として、3か月に1回身体拘束虐待防止委員会を開催するとともに、年2回身体拘束虐待防止の研修会を実施し、職員は虐待や不適切なケアの防止等の理解を深めている。また、「不適切ケア自己点検チェックシート」を活用して、毎回委員会を開催する際に、集計結果等を報告している。また、不適切なケアを発見した場合には、職員を交代して対応するとともに、管理者に報告し、ユニット会で話し合う機会を設けている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。ユニット会などで、実際の事例を話し合うこともある。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	いまのところ、そのような要望はほとんどみられないが、実際に要望があった際には、きちんと対応していきたい。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	普段の仕事の中では馴染みがうすく、理解するのは難しい。いまのところ、相談等はない。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	いまのところ、相談等はない。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	意識不明等の急変に対してのマニュアルはあり、全体に周知しているが、怪我等個別のマニュアルはない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初任者研修で勉強した。消防署職員の救命講習(内部研修)にも、交代で職員が参加していく。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットとも整備されており、速やかに記入ができています。ただ、内容の閲覧まで、十分な検討まではできていない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	実施している。センサーマットや緩衝マットなど使用したり、歩行が不安定な方には歩行器を使用する、歩行時は見守り、手引きをするなど実施している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	家族に丁寧な経過報告を行い納得してもらいながら関係を作れたと思う	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	契約当初だけしか情報提供できていない	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	◎	/	○	日々の関わりの中で、職員は利用者の話に耳を傾けて、意見や要望を把握するよう努めている。家族からは、来訪時や電話連絡時等に職員が声をかけて、意見や要望を聞くようにしている。また、日常の業務の中で、管理者は職員から意見や提案を聞くとともに、ユニット会でも意見交換の場を設けられるなど、職員は気軽に相談や話をする事ができる環境が整っている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初だけしか情報提供できていない	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	機会を作るようにしている	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場に入り、実際のケアにあたりながら、職員とも意見交換や指導を行っているがもう少しみんなの意見を聞き検討する必要があると思う	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は数人の職員で行った。実施後の振り返りは全員に周知した。	/	/	/	事業所では、前々回も目標達成計画に挙げて取り組んだものの、全ての職員が参画して、自己評価を実施することまでには至っていない。また、外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画を運営推進会議の中で報告するとともに、職員にも周知して目標達成に向けて取り組んでいるが、取り組み状況の報告までは行っていない。会議に参加できていない家族までには、会議の報告はできておらず、家族会も休止状態が続いており、今後は目標達成に向けた事業所の取り組みを運営推進会議で報告するとともに、サービスの評価結果の要点をまとめて、全ての家族に送付したり、目標達成の取り組み状況のモニターを依頼するなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成しているが、今回、アセスメントシートを担当職員にも協力してもらうことができた。記録に対する意識はタブレットの導入もあり不十分だった	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族会や運営推進会議で報告し、実際に取り組んでいる。今年は、コロナ流行の為、家族会を実施できていない。	○	×	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	家族会や運営推進会議で報告し、実際に取り組んでいる。今年は、コロナ流行の為、家族会を実施できていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災時の対応マニュアルは作成している。そのマニュアルに準じて、他の災害時にも行動できるように伝えていきたい。火災・地震の防災訓練を実施した。	/	/	/	複合施設として、各種の災害マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、年2回消防避難訓練を実施している。感染対策を含めた事業継続計画も作成している。また、複合施設は市行政から福祉避難所に指定され、食料等の備蓄品を用意している。複合施設内での合同訓練の実施はできているものの、感染対策が続き、地域の防災訓練に参加協力したり、地域住民と災害対応を話し合ったりすることまでには至っていない。利用者家族等・地域アンケート結果から、災害の備えに対して十分な理解が得られていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議や家族会を活用して、事業所の防災計画や防災への取り組みを周知したり、複合施設の避難訓練に家族等の参加を呼びかけたりするなど、家族や地域住民との協力支援体制の構築に向けて職員間で検討していくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災・地震の避難訓練を行っている。また夜間の通報訓練などを通して、行動マニュアルを周知するようにしている	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	ガリラヤ久米全体で、物品の用意・点検を行っている	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	避難訓練で、消防署の協力を得て、指導等いただいているが、地域住民との訓練や話し合いはできていない	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同上。合同訓練に参加した。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	グループホーム単体での情報発信や啓蒙活動はできていない	/	/	/	法人のホームページを活用して、広報啓発をしている。複合施設には、居宅介護支援事業所が併設され、認知症に関する相談対応もするなど、事業所として相談支援の場までは設けていない。入居希望での見学時に相談を受けた場合には、地域包括支援センターなどの適切な相談窓口に繋いでいる。また、事業所として、学生の実習受け入れや中学生の職場体験に協力するとともに、令和6年度から管理者がグループホーム交流会の会長としても活動するなど、平時から市行政や地域包括支援センター、関係機関との連携が図られている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	居宅支援事業所で支援を行っている。グループホームでは、入所希望者の見学や相談支援を行っている	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	グループホームとしては場所の提供等できていないが、地域サロンを活用して「ふらりカフェ」を事業所として行っている。地域の方の参加もある	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	東温市のガリラヤ荘と連携して、学生等の実習受け入れに協力している。中学生の職場体験にも協力した。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	グループホーム交流会で、今年度は会長をする事によって他のグループホームとの交流が持てたと思う。今年もお祭りの訪問に参加し楽しませていただいていた。	/	/	○	